

喜寿同期会

宮澤憲一（10組）

6月初旬、代表幹事の布施修一郎君（6組）から連絡が来て「田中格先生を同期会に招待したいが、どう思いますか？」との話。＜勿論出ていただきたい＞と返信。数日後、先生の参加が決まったと嬉しい連絡。早速筆者からも関東をはじめ10組欠席予定者に＜先生出席につき、参加再考を！＞のメールを流す。予定変更してくれた級友もあり、10組としては異例？の8名の参加となった。10組は、普段活発な9組と11組に挟まれ地味な存在だったが、今回ばかりは存在感を示すことができた。

核になる人がいると違う。正に“格（核）さん効果”である。

出席者は、幹事の神田（堀内）愛子さん・中野（水野）和子さん・木村（古市）和子さん・神宮進君・柳沢修一君・堀内廣君・山極時生君と筆者。半数以上が長野県外から駆けつけた。中野さんとは卒業以来の再会であったが、顔を見るなり筆者の通学時の姿（服装）が可笑しかったと笑われる（全く記憶にないのだが）。堀内君は古稀記念同期会で撮った写真を今回律儀に関係者に配付してくれた。ありがとう。全員終始賑やかに歓談。

先生は昔とあまり変わらぬ容貌で、年齢（92歳）より若々しく見えると皆が言う。喜寿の我々と並んでも、どちらが生徒か先生か分からない。挨拶すると開口一番＜花園の家（筆者の実家）は今どうなっている？＞との質問あり。修学旅行前に急病で学校を欠席し、一度訪ねて来ていただいたことがある。大した記憶力であり驚いた。

かなり前の話になるが、10組が同級会を開いた時に、出席者は先生からご自身の回想記『わだちの影』をいただいた。筆者がいただいた本書を独占はもったいないので近年同期の希望者に読んで貰った。上原昇君（2組）→宮原豊君（9組）→櫻田喜貢穂君（7組）と回った本書を今回同期会に合わせ返してもらった。宮原君から渡された感想文を手には先生は嬉しそう。櫻田君が挨拶したときはサプライズあり。先生から＜櫻田君の倫社のレポート（夏休みの宿題）は本当に素晴らしい内容で感心した＞との賛辞があり、本人も周りもびっくり。やはりその記憶力は半端ではなかった。

写真を撮ったりライン友達登録をしたりで、楽しい時間はあっという間に過ぎる。もっと時間が欲しかったが、充実した立派な同期会であった。今回これだけの大きな会を成功裡に運営された幹事団の皆様には、心からお礼申し上げる次第。

（2025年7月28日記）

次ページに写真



『わだちの影』を手にする田中先生を囲んで、左が筆者、右が宮原君



筆者（宮澤）と山極君

以上